



こくろうよなご

第19号

2024年5月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

多様な働き方とは！

6月定期異動の発令に思う！

変わる転勤の考え方

6月1日付の定期異動が発令になりましたが、異動の辞令を受けた皆さんの育児や介護などの家庭環境は十分に配慮がされているでしょうか。また、本人の意向は十分に尊重されているのでしょうか。

世の中の的には、本人の意向に沿わない転勤が離職や人材獲得の障害になるとの認識のもと、全国展開の大企業においても、転勤への考え方もかなり変化しているように思います。一方、JR西本会社における転勤などの社員運用は、まだまだ世の中の流れからすれば遅れてしまっているとの懸念をもつのは、少し考えすぎでしょうか。転勤を巡り、需要と供給のバランスもあるとの声が聞こえてきそうですが、元を言えば将来も見据えた各地区における採用計画になっ

うか。

また、転勤を通じて職場の活性化や個人の成長にもつながるとの考え方も聞いたことがありますが、単身赴任や遠距離通勤が与える負担感こそ、やる気を減退させる原因そのものではないでしょうか。もっと言えば、会社の裁量による一方的な転勤発令がされているとすれば、働く者を萎縮させ、「風通しの良い職場づくり」の弊害にもなりかねません。

アップデートには！

現在、JR西日本会社は、「高コスト体質を目的に、「構造改革」と称した効率化施策をこれまでにない規模とスピードを持って進めてきています。その結果、職場の縮小・統廃合により、そもそもが地元で働く場すら段々と無くされて来ているのが現状ではないでしょうか。この4月には、「中期経営計画2025アップデート」が公表されました。アップデートに伴う新たな追加施策の中には「成長を支援



し、多様性と働きがい高めめる環境・仕組みの整備」という項目もあります。本人の意向に沿わない転勤があるとも相反するものだと思います。

会社栄えて社員は？

アップデートに示された財務目標を見ると、連結営業利益が2025年では、当初の1500億円から1850

億円に、2027年度では、当初の1850億円から1950億円へと引き上げられてきました。

春闘時の交渉では、「コロナが明けても先行き不透明」など厳しい話に終始したことを思えば、随分と景気のいい話ですが、これらの事業を支えているのは他でもなく、私たち労働者です。

「会社栄えて、社員残らず」というブラックジョークのような話にならないよう、私たち労働組合が会社施策に対してチェック機能を発揮して行かなければなりません。育児や介護はもとより、将来展望を持って働き続けられる職場づくりを求め奮闘しているではありませんか。

小さな取り組みの積み重ねが変える力に！

2025年4月1日より、JRグループに「精神障害者割引制度」が導入されることになりました。

これまでも一部私鉄や日本航空や全日空などの航空会社において、先行して導入をされ、2019年国会においてJR等の交通運賃割引制度に精神障害者も対象とする旨を採択、その後の国会でも幾度となく取り上げられ、この度、制度の実現に至りました。

今回の制度実現への思いについて、当事者・家族の会の皆さんからは、「所得補償の観点からだけでなく、精神障害者のみが制度から除かれているという状況

態が、自分たちの存在が否定され、尊厳を踏みにじり、偏見を助長することになる」と訴えられてきました。

国労米子地方本部としても、浜田地区において共闘関係にある「西川病院労組」より、制度導入への働きかけの要請を受け、本社や国交省への要請に加えて頂いたこともありましたが、最近では、あまり関心を寄せずにいたのでニュースで見えてきました。

私たちの取組みの成果などと、とても言えるものではありませんが、一つ一つの小さな取り組みが、何かを変えていく力になるのだと感じたところです。

長年の貢献に心より感謝！

5月13日島根県支部、5月17日米子地方本部事務所にて、7月末退職者を対象とした説明会を開催しました。説明会では、労働金庫・こくみん共済・総合共済についての退職後の取り扱いと合わせて鉄道退職者の会への加入の呼びかけが行われてきました。退

職金のお得な運用やこくみん共済からは65歳以降からの任意保険の手続き等について、吾郷書記長からは、交運共済の退職給付金の手続き漏れへの注意喚起や退職後の取り扱いなどについて、説明を受けてきました。

説明会の後は長年の慰労の気持ちをこめて、懇親会の簡素ですが、退

方準備をさせて頂きました。日々の職場においては安全・安心輸送を支え、労働組合では国鉄の「分割・民営化」をはじめとした差別・選別と闘い、安心して働き続けられるJRとす



私たちがの事も思い出し、引き続き、国鉄労働組合を御支援頂ければ幸いです。退職者の皆さま、長い間、本当にお疲れ様でした。